

平成29年度 年度末評価



広島県尾道南高等学校

目 次

平成 29 年度自己評価シート(年度末評価)……………1

平成 29 年度自己評価シート(年度末評価まとめ)……………4

平成 29 年度学校関係者評価シート(年度末評価)……………5

平成29年度自己評価シート(年度末評価)

校番	199	学校名	広島県尾道南高等学校	校長氏名	高坂 学	定時制	本校
----	-----	-----	------------	------	------	-----	----

学校経営目標									
達成目標	評価指標	前年度			本年度		評価	理由	担当部等
		実績値	目標値	実績値	目標値	実績値			
1 学びの変革を推進し、生徒の多様な実態に対応しながら、基礎的・基本的な知識や技能を育成するとともに、生徒が主体的に活動しあい、思考力・判断力・表現力を高めることができる。									
生徒が見通しを持って主体的に学習しようとする意欲や態度を育てる授業を行う。	生徒の授業満足度	74%	75%	77%	A	○振り返りシートによる授業満足度が目標値を超えている。 ○校内及び公開授業研究会を計画通り実施した。	教務部		
体験学習を通して、他者と協働的に取り組む態度を育てるとともに、自己理解を深めさせる。	体験学習の肯定的評価	66%	70%	63%	B	○大豆づくりのアンケート結果は、肯定的評価が63%であった。	教務部		
個別の合理的配慮を考慮し、生徒の共通理解に努め、組織的・統一的に支援の充実を図る。	(1)自己管理能力の評価(生徒・教職員) ・生徒はキャリアノートの自己肯定感 ・教職員は生徒理解アンケートの生徒理解による (2)合理的配慮が必要な生徒の家庭・関係機関との連携の割合	(1)生徒(新規) 教職員 79%	(1)生徒 75% 教職員 80%	(1)生徒 77% 教職員 80%	B	○特別支援教育支援員・教科アシスタント等による日常の支援が全ての生徒にとって効果的であった。 ○外部講師による、教育的な支援の充実のための講演会・研修会を実施した。	教育支援		

【評価結果の分析】

- 教育的な支援の観点に立った授業について共通認識されてきている。昨年と比べて、プロジェクターを利用した授業や特別支援教育支援員・教科アシスタントとの連携を持った授業が増えており、各教科において一層の工夫、試みがされている。
- 校内及び公開授業研究会において、プレゼンテーションソフトによる視覚的な提示、実物や模型あるいはイラストを用いた教材作成、個別の生徒に配慮した教材作成等、様々な工夫が見られた。また、研究協議では、「生徒が積極的に授業に参加していた」「視覚支援や生徒への言葉がけ等参考になった」等の意見が出た。
- 学校体制として教育的な支援を構築・継続していくために、本校独自の支援のスタッフ体制は必要不可欠である。
- 保護者や関係機関との個別具体の支援に係る連携が、生徒の学校への定着や進路目標の実現、自己肯定感の育成につながっている。

【今後の改善方策】

- 授業満足度の内容を検討し、各教科の課題や設定目標が明確になるよう質問項目の見直しを図る。振り返りシートの活用方法についても検討する。
- 授業研究会(校内・公開)について、その意義を共通認識し継続して実施する。非常勤講師の参加方法についても検討する。
- 体験活動で多角的なものごとを見たり、振り返りを行うことにより、自分を客観的・多面的に見つめ直させる。
- 保護者・関係機関と連携した情報をもとに、個別具体の合理的配慮にむけて協議・検討していく。
- ケース会議を通して生徒の情報を共有し、個別具体の課題に対応し、生徒の進路目標の実現や、社会参加に繋げていく。

達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当 部等
		実績値	目標値	実績値			
2 キャリア教育を充実させ、一人一人の社会的・職業的な自立に向けて、社会人として必要な能力・技能や態度を育てる。							
自己理解・他者理解を深め、自己肯定感の高揚を図る。	キャリア教育関係のホームルームの実施回数	新規	4回	4回	B	○キャリア教育ワークシート(2回)、キャリア教育講演会、生活体験文を実施した。	進路 指導部
社会的・職業的自立を達成するための進路・職業選択、自己決定に関わる諸能力の形成を目指す。	就労体験活動の実施回数	新規	4回	8回	A	○看護体験学習、ジョブシャドウイング、インターンシップや、個別の職場見学を実施した。 ○生徒の就労率は68%(68名中46名)である。	進路 指導部

【評価結果の分析】

- 第2回キャリア教育ワークシートの実施率(68%)、キャリア教育講演会参加率(75%)、生活体験文の実施率(84%)であった。
- キャリア教育関係のホームルーム活動を通して、自己理解や他者理解が深まり、自己肯定感が向上した。
- ジョブシャドウイング・インターンシップに参加した生徒6名のうち、4名が就労の取組につながった。
- 卒業後の進路決定の取組として、4年生で計4回、個別の職場見学を実施した。
- 各学年の就労率は4年 89%、3年 71%、2年 75%、1年 45%である。

【今後の改善方策】

- 生徒の内面の成長や不安感を把握し、生徒理解を深める。
- 各キャリア教育関係のホームルームの参加率を向上させる取組を考える。
- 就労を希望する生徒については、必要に応じて関係機関との連携を行い、就労体験をさせる中で進路目標の実現に取り組む。
- 保護者・関係機関と連携し、生徒・保護者の意をくんだ進路指導の在り方を模索していく必要がある。

達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当 部等
		実績値	目標値	実績値			
3 危機管理を徹底し、生徒に自己肯定感を持たせるとともに、自己教育力、豊かな人間性を育て、安心して学べる。							
集団や社会の一員としての自己実現を達成するために、指導方針を明確にすると共に、ルールを明示し、生徒一人一人への理解と支援のための取組を講ずる。	休学者及び中途退学者数の在籍生徒数に対する割合	22%	20%以下	17%	B	○目標値以内であった。	生徒 指導部
生徒会活動や地域貢献活動等を通して、仲間と共にパフォーマンスを高め合おうとする態度を育て、社会人としてのスキルアップを図る。	生徒会行事等への参加率	68%	72%	66%	B	○目標値を6ポイント下回った。	生徒 指導部
自他の命や人権を尊重するとともに、学校安全体制の整備を推進する。	学校生活改善アンケート「安心安全度」	新規	生徒 82% 保護者 90% ※2回の 平均	生徒 71.7% 保護者 97.4% ※2回の 平均	B	○保護者は肯定的な回答が多かった。	総務 保健部

【評価結果の分析】

- 休学者及び中途退学者数の在籍生徒に対する割合は目標値以内であった。保護者との綿密な連携と、日々の丁寧な教育活動の積み重ねの成果と考える。休学や退学する生徒については、学校内外の生活環境を含めた生徒理解が必要である。
- 今年度は尾三定連合同行事と南高祭が土曜日開催であり、仕事を持つ生徒の参加率が低かったことが要因と思われる。尾三定連合同行事は他校との合同行事であり、会場が全定併設校のため施設使用が限定され、今後も土曜開催の見込みである。

- 安心安全に係る第1回目の「学校生活改善アンケート」生徒集約では、「学校に行くのは楽しいですか。」の質問で、肯定的評価は64.8%であったが、第2回目では、「学校では安心して過ごせていますか。」と変更して質問をすると、肯定的評価は71.7%という結果であった。
- 第1回目の「学校生活改善アンケート」保護者集約では、「学校に子どもを安心して通わせることができますか。」の質問で、肯定的評価が95.7%であった。第2回目では、97.4%という結果で、大部分の保護者が肯定的にとらえていた。

【今後の改善方策】

- 仕事のために授業に出席できない生徒の生活実態を把握し、情報を共有する。
- 生徒会行事・学校行事の計画を早めに策定し、早期に生徒に周知する。
- 生徒の「安心安全度」を上げるためには、個人面談等で否定的評価の要因を把握して、安心して通える学校にしていく必要がある。
- 「学校生活改善アンケート」の生徒提出率は向上した。保護者への提出率は昨年度に比べて向上した。通知表送付時にアンケートを同封して各家庭へ郵送すると共に、生徒を通じて提出の協力を依頼した。次年度も提出率の向上のために工夫する。

達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当 部等
		実績値	目標値	実績値			
4 開かれた学校づくりを進め、家庭や保護者と課題を共有し、地域や関係機関の協力を得て、生徒の可能性を伸ばすための教育活動を共に行う。							
家庭、地域、関係機関に向けて学校情報を発信する。	ホームページの更新回数	65回	24回	39回	A	○目標値の更新回数を大きく上回ることができた。	総務 保健部
家庭、地域、関係機関との連携を深め、生徒の自立心を育成する。	公開研究授業やキャリア教育研修会、などの研修会や行事、体験学習の実施回数	7回	7回	18回	A	○目標回数を大きく上回ることができた。	全分掌

【評価結果の分析】

- 目標回数を大きく上回った。担当者を中心に組織的に作成にあたるようになったことが、この成果に繋がっていると考ええる。
- 各分掌が企画・立案した教育活動を実施し、それらの体験を通して、生徒の自立心を育成することができた。
- 昨年度の実施回数は、公開研究授業3回、キャリア教育研修 3回、自然体験学習3回、研修会(外部講師)4回、行事 5回(文化祭参加2回・体育祭・幼稚園交流・イノベーションスクール)であった。

【今後の改善方策】

- 担当者が交代しても、ホームページの更新ができるように、複数の担当者を配置する。
- ホームページの更新ができるパソコンを増やすことを検討する。

平成 29 年度自己評価シート(年度末評価まとめ)

校番	199	学校名	広島県尾道南高等学校	校長氏名	高坂 学	定時制	本校
----	-----	-----	------------	------	------	-----	----

1 評価結果の分析

(1) 成果

- 校内及び公開授業研究会を計画通り実施し、研究協議や教職員アンケートで「生徒が積極的に授業に参加していた」「視覚支援や生徒への言葉がけ等参考になった」等の高評価を得た。
- 自然体験学習として、大豆づくりを実施し、「作物を育てて食べる」活動を行うことができた。
- 校内及び授業研究会において、プレゼンテーションソフトによる視覚的な提示や、実物の心臓や血管の模型あるいは場面がつかめるよう、イラストを用いた教材作成等の生徒が理解を深めるための事前の準備や、個別の生徒に配慮した教材作成等、様々な工夫が施されていた。
- 個別具体の課題を整理し保護者・関係機関との連携を密にとり課題を共有することが支援の方策に功を奏している。
- キャリア教育関係のホームルーム活動を通して、生徒は自己理解・他者理解・自己肯定感において自己を深く振り返ることができた。
- 第2回キャリア教育ワークシートの実施率は68%。キャリア教育講演会参加率は75%。生活体験文の実施は84%であった。
- ジョブシャドウ・インターンシップに参加した生徒6名のうち、4名が就労の取り組みにつながった。
- 第2回目の「学校生活改善アンケート」生徒集約では、「学校では安心して過ごせていますか？」の質問に72.1%の生徒が肯定的意見であった。保護者集約では、「学校に子供を安心して通わせることができますか？」の質問に、97.4%が肯定的な意見であった。
- 担当者を中心に組織的に作成にあたれるようになり、目標のホームページの更新回数を大きく上回ることができた。
- 各分掌が企画・立案した連携を実施し、それらの経験の中から、生徒の自律心を育成することができた。

(2) 課題

- 学校体制として継続した教育的な支援を構築・継続していくために、本校独自の既存のスタッフ体制は必要不可欠である。
- 現在、生徒の就労率は68%(68名中46名)であり、未就労の生徒については、生徒に合わせた関係機関との連携を密にすることにより、進路実現に向け取り組む必要がある。
- 今年度は尾三定連合同行事と南高祭が土曜日開催であり、仕事を持つ生徒の参加率が低かったことが参加目標値を下回った要因と思われるので、開催する曜日について検討する必要があると考える。
- 2月現在14名の生徒が休学や退学の手続きを行った。その内の10名の生徒が複数回の休学や退学である。この課題を克服するためには、学校内だけでなく生活環境を含めた生徒理解が必要であると考えている。
- 生徒の「安心安全度」は目標値より約14%ト下がり、その理由をそれぞれ確認して、安心して通える学校にしていく必要がある。
- 更新について、担当者が交代しても、ある程度のホームページ更新ができるように、複数人が担当できるように考察する必要がある。

2 今後の改善方策

- 生徒の授業満足度は目標値を達成しており、数値的には年々上昇傾向にある。今後も各教科の課題や設定目標が明確になるような質問項目の見直しを図ると共に、振り返りシートの活用方法についても検討していく。
- 授業研究会(校内・公開)については、非常勤講師を含めた全教職員が参加できる研修会を実施できるように考えていく。
- 今後も教職員の実践能力や行動力の向上を目指して、ケース会議や担任同士、また、担任と教科間の連携を深めていく。
- 各キャリア教育関係のホームルーム(ワークシート作成・講演会・生活体験文)の参加率のさらなる向上につながるよう取り組む。
- 社会参加を基盤として、自らの人生と将来を展望し、生徒の社会的・職業的自立を達成するために、教職員が保護者・関係機関と連携し、あくまでも生徒・保護者の意をくみ取った進路指導の在り方を模索していく必要がある。
- 仕事との両立を図りながらも、このことが実現できない生徒の生活実態を把握し、情報の共有化を推進していく取組を行う必要がある。
- 生徒会行事・学校行事の計画を早めに策定し、早期に生徒に周知できるよう取り組む。
- 「学校生活改善アンケート」の提出については、各担任が家庭に直接、電話して提出を求めたことが、提出率の向上につながっている。次年度に向けても、今年度の活動を継続し、新たな取組を実施していく。
- ホームページを更新ができるパソコンが限られているので、更新ができるパソコンを増やす等の改善が必要である。
- 地域等との連携は活発に行われ、今後もこの傾向は続くと考えられるので、達成目標の変更を考えていくべきだと考える。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- 生徒や保護者へのアンケートをより充実させる。その結果を分析し、学校の現状を的確につかむ中から、課題の解決や生徒の力を伸ばしていく具体的な取組を行っていく。
- 本校に在籍する生徒の様々な悩みや課題に応じた取組を考えていくことと、生徒の多様なニーズに対応するために、できる限り多くの選択肢を提示し、生徒が自己理解と自己肯定感を持って適切に選択して、日々成長していけるようにする。

平成 29 年度学校関係者評価シート(年度末評価)

平成 30 年3月 29 日

校番	199	学校名	広島県尾道南高等学校	校長氏名	高 坂 学	定時制	本 校
----	-----	-----	------------	------	-------	-----	-----

評価項目	評価	理 由・意 見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	<p>○前年度の実績を考慮し、ほぼ適切な指標である。</p> <p>○成果目標を加味するとさらに良いと思う。</p> <p>○年度途中であっても、実際に実施してみて、わかりづらいと思われるようなことをすぐに改めたことは、良かったと思う。</p> <p>○長年取り組んでこられた成果を踏まえて、引き続き学校を充実させるための適正な方向性が示されていると思う。項目立てが以前より数を減らして集約化されているので、より明確になっている。</p> <p>○環境分析に基づき、強みと機会をそれぞれの目標に落とし込んで、どこに問題があるのかがわかる目標設定になっている。</p> <p>○家庭や関係機関との連携や生徒への合理的配慮が示されており、南高の教育活動の資質の向上を図る設定になっている。</p>
目標の達成状況の評価の適切さ	B	<p>○目標(指標)と結果を照合し、非常に適切に評価されている。</p> <p>○対象となる人数がわからなかったり、内容や要因がわからないようなこともあったりして、指標がどう評価とつながっているのか、理解できないところがある。</p> <p>○数値結果が全国や県内、他校との比較でないとわからないような数値がある。</p> <p>○達成状況の指標として数値を挙げているが、各項目で質的な分析もして、総合的に評価されていて適切である。</p> <p>○生徒や保護者へのアンケートを指標として用いており、学校運営に対する保護者の理解と参画を図っており、開かれた学校づくりを推進するのに適う評価である。</p>
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<p>○合理的な配慮に向けて、どのような具体的な対応を行っているのかを聞きたい。</p> <p>○尾道南高が他校とは異なる独自の教育活動を展開し、目標を達成しているところを報告してほしい。</p> <p>○キャリア教育が充実して、生徒個々が成長している姿がうかがわれる。</p> <p>○すべての取組において継続性がうかがわれ、このことにより目標が達成されている。</p> <p>○評価には個々の評価と均一の評価があるが、本校のような生徒の状況であれば、個々の評価を重視し、生徒の状況に応じた取組を考え、実践する必要がある。</p> <p>○生徒中心の高い志と専門的な情報を取り入れ工夫された実践が行われています。今年も特別支援教育や就労支援に力を注がれ、研修会や体験学習が多く実施され、生徒の自己理解に基づいた進路選択に繋がれていることを高く評価する。</p> <p>○生徒の多様な実態に対応しながら、組織的・統一的な支援に取り組むことが目標に示され、その達成に向け創意と叡智にあふれた実践が継続的に行われている。</p>
評価結果の分析の適切さ	A	<p>○結果それぞれに対して、きちんと説明してある点については、高く評価できる。</p> <p>○「目に見える結果」を「○○だった」としているが、その成果をもたらした背景や理由も成果として挙げられたいら、もっと素晴らしいものになる。</p> <p>○生活体験文は、生徒が本来持っている、自らを表現したいという思いを満たすような取組にしていく必要があるのではないか。</p> <p>○十分な取り組みで、全て評価 A でもいいかと思いますが、今の状態に満足して終わるのではなく、さらに充実していくために、敢えて B をつけるとの説明がありましたので、その自己評価を尊重いたします。</p> <p>○すべてを網羅的に評価するのではなく、達成目標を焦点化することが大切と考える。</p>
今後の改善方策の適切さ	A	<p>○「学びの改革」に従って、様々な授業改善が行われていることは評価できる。</p> <p>○「学び直し」など、生徒に確かな学力を身につけていくことが必要である。</p> <p>○改善方策は妥当である。ただ、抽象的なので、全体包括的な策とせず、ポイントをしっかりと突いていくような策である方が良い。</p> <p>○何かあってから取組むのではなく、何かある前に取組もうとする姿勢は評価できる。</p> <p>○学校が今以上に盛況になるよう、卒業生たちが学校に来やすくなるような取組を実践してほしい。</p> <p>○若い先生方が意欲的、積極的に生徒たちの支援ができるような取組を考えてほしい。</p> <p>○よく検討されています。先に方策を進めることだけでなく、非常勤職員も含めて学校全体の各生徒の現時点での状況と個別の支援目標の理解と共有化が必要と考えます。</p>
総合評価	A	<p>○概ね年度当初に計画したことが行われており評価できる。合理的配慮が必要な生徒については、今後も、一人も漏れることがなく対応していただきたい。</p> <p>○これからも、それぞれの生徒の多様性を客観的に把握し、できる限り多くの選択肢をご提示ください。生徒が自己理解と自己肯定感を持って、適切に選択して、次の進路に進んでいけるように、今後ともご支援をお願いいたします。</p> <p>○平成 28 年度からの3年目で、最後の経営計画年度になります。この間、学校の中で研鑽と創意を重ね、学校全体で取り組んできたことが、大きな成果になっていると考える</p>